

平成27年度教育功績賞受賞者一覧

学部等	候補者	内 容
工 学 部	豊 福 俊 泰 教授	<p>本学と地元自治体等が連携することにより、古賀市（3橋）・福岡市（4橋）・新宮町（4橋）管理の11橋において、工学部「ものづくり・人づくり・夢づくりプロジェクト」の一環である「地域連携によるインフラ維持管理の匠育成プロジェクト」活動を指導して、トヨフク法透水性試験機等の非破壊検査による橋梁調査を行うことで、インフラ維持管理の匠を育成する工学教育を実践すると共に、地元自治体に貢献した。この工学教育活動のうち、平成27年11月2日の福岡市川端橋の橋梁調査を報道機関に公開し、「NHK福岡ニュース、KBCニュース、RKBひるおび、FBSめんたいワイド」で放送されるとともに、「日本経済新聞（11月3日朝刊、11月18日朝刊）、日経産業新聞（11月5日朝刊）」及び「ふくおか経済（2016年1月号）」にも掲載され、ニュース報道された。</p> <p>この工学教育に対する功績「地域連携によるインフラ維持管理の匠育成プロジェクト」の実践に対して、平成28年2月九州工学教育協会「第18回（平成27年度）九州工学教育協会賞」を受賞した。</p>
	細 川 土佐男 教授	
	松 尾 栄 治 准教授	
	永 松 武 則 技能員	
工 学 部	花 井 伸 明 教授	<p>2008年から毎年、国内外の大学と共同して「国際トラスコンテスト」を開催している。このコンテストは、学生が紙などの身近な教材を用いてトラス構造物の模型を作成し、重りを吊るしてどれだけの重量に耐えられるかを競う大学対抗のイベントであり、毎年、各大学をインターネット回線で結んで実施している。近年には5カ国延べ14大学が参加するまでに発展した。候補者は2012年からコンテストの運営幹事を務めており、毎年コンテストを開催するために尽力している。また、3年次のゼミ形式の授業（前期「工学特別実習」、後期「建築学特別実習」）の一環として学生をコンテストに参加させており、授業にコンテストを取り入れるなど、建築構造力学に対する理解を深めると同時に、同じ分野の学問を学ぶ海外の学生から刺激を受けることで国際的視野を養うなど教育効果は高い。</p> <p>2015年には、以上のような継続的取り組みが高く評価され、候補者を含む関係各大学の教員らで構成する「国際トラスコンテストの会」が「2015年日本建築学会教育賞（教育貢献）」を受賞した。</p> <p>日本建築学会教育賞（教育貢献）は、近年中に実践され、建築教育の発展に貢献した教育プログラム・教材等の業績に対して、日本建築学会より授与される賞である。</p>
工 学 部	矢 作 昌 生 准教授	<p>本学に着任してすぐにABC建築道場という学生サークルを立ち上げて顧問を務め、毎週テーマを決めて建築課題を作成する「しゅうまい」や国内外へのワークショップへの参加、第一線で活躍している建築家やデザイナーによる講演会や学生作品講評会を主催し、本学の学生に対し熱心な指導を継続して行ってきた。その結果として、所属学生が、全国的な建築コンテストで優秀な成績を多数収め、本学の大学院に加え、明治大学大学院建築・都市デザイン国際プロフェッショナルコース（通称IAUD/全て英語での授業）、熊本大学大学院、北九州市立大学大学院など進学している。また、隈研吾建築設計事務所（世界的に著名な建築家・新国立競技場の設計者）をはじめ、UID（前田圭介氏/JIA 新人賞2012、アルカシア建築賞ゴールドメダル）、オンデザイン（西田司氏/JIA 新人賞2011）、川辺直哉建築設計事務所、松山建築設計室（松山将勝氏/グッドデザイン賞・日本建築学会建築九州賞作品賞など多数受賞）など、第一線で活躍し全国的に名声のある建築設計事務所への就職に繋がっている。</p>
工 学 部	諫 見 泰 彦 准教授	<p>図面や模型で終わらない実体ある成果と社会的評価が伴う住居・インテリア教育に精力的に取り組んでいる。その一題として、株式会社三好不動産と株式会社サンコーライフサポートとの産学連携によるプロジェクト型学習「学生ブランドによるマンションリノベーションの設計と工事監理」を5年間継続実践しており、平成27年度において本学学生への設計と工事監理によるリノベーション物件数10室を達成し、独自の視点から創造性かつ実効性に富む本学修を実践した。</p> <p>この学修では、学生の卒業設計による成果が、日本建築士会卒業設計奨励賞（4回）、日本建築学会九州支部長賞（2回）、福岡県建築士会長賞（2回）を受賞した。また九州電力・JR九州・福岡商工会議所等が主要会員である博多まちづくり推進協議会の要請により、平成27年10月に博多駅前において本学修成果の展示会を実施して、極めて高い社会的評価を獲得した。さらに連携企業である株式会社三好不動産に1名、株式会社サンコーライフサポートに1名、これまでに学生がそれぞれ就職して専門職の道を歩みだす等、進路指導上の効果が認められる。</p>
工 学 部	榊 泰 輔 教授	<p>平成24年度学修支援事業として採択され、工学部・芸術学部・学部間横断実習（テクノアートプロジェクト）を4年間実施した。これは、2学部と情報科学部を合わせた学部間横断の実習である。デザイン学科学生がもともになるコンセプトを考案し、理工系学部学生がマイコン・センサ等のモノづくりを担当、チームで議論しながら力を合わせてハイテク玩具等を作成した。成果物は、学内での最終プレゼンと優秀作品についての表彰、また市民向けに展示した。展示と説明は学生が行った。参加学生は、初年度40名、最終年度は60名と徐々に増加した。</p> <p>教育効果として、いわゆる社会人基礎力（積極性、忍耐力、協調性）と専門能力の向上をねらった。検証のためアンケートを実施したところ、いずれにおいても70～80%がやや伸びた、大いに伸びたと回答、さらに自由記述においても意義を理解しスキル向上に前向きなコメントが多数寄せられた。これらにより本教育事業の効果は大いにあったと考える。</p>
	牛 見 宣 博 教授	
	鶴 田 和 寛 教授	
	李 湧 権 教授	
	村 上 剛 司 准教授	
芸 術 学 部	青 木 幹 太 教授	
情 報 科 学 部	下 川 俊 彦 教授	
	神 屋 郁 子 助教	